

急性心筋梗塞に併発する心破裂の実態調査

(調査の意義、目的)

京都府において、急性心筋梗塞は人口10万人あたり50人程度の発生率とされています。急性心筋梗塞の院内死亡率はカテーテル治療の発展や救急医療体制の向上に伴い、20年前と比し低下傾向にあります。高齡化を背景にここ数年は改善に乏しく、院内死亡率は7-10%と依然高く推移しています。

急性心筋梗塞の急性期合併症である心破裂は、全急性心筋梗塞患者の1-3%程度で発生し、心破裂を併発するとその致死率は50%以上と極めて高率であると報告されています。急性心筋梗塞における心破裂合併を初期治療の段階で迅速に予測しうる方法を構築することは、心破裂発症を未然に防ぐための一助になり、ひいては急性心筋梗塞治療成績の向上に寄与すると考えられます。

(調査の方法)

京都府立医科大学循環器内科およびその関連病院において、急性心筋梗塞に対して治療を受けられた患者さまの経過を、カルテ等をもとに調査します。各施設の調査結果は京都府立医科大学循環器内科において集積されます。

(調査の対象となる方)

2009年1月から2015年12月までの間に急性心筋梗塞に対して治療を受けられた患者さま。

(個人情報の取り扱いについて)

調査実施に際しては、対象の患者さまの秘密保護に十分配慮します。情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。調査結果が公表される場合でも個人が特定されることはありません。京都府立医科大学循環器内科に集積された個人情報については、京都府立医科大学循環器内科において厳重に管理されます。

上記の調査への登録を希望されない場合には、担当医または下記までご連絡ください。なおこの調査は、京都府立医科大学ならびに当院の倫理審査委員会で承認されております。

(お問い合わせ先)

京都第一赤十字病院 心臓センター循環器内科 部長 沢田 尚久
電話 075-561-1121